試着室でパンツの裾からわざとハミチンさせて、女性店員にチンポ見せてみた話

休日の午後、人通りの多いショッピングモールのメンズカジュアルコーナーに立ち寄った。特に買う予定はなかったが、新作のチノパンが目に入った。いくつかサイズを手に取り、試着室へ向かう。個室に入り、まず持っていた一本を穿いてみる。少し大きめだったので、別のサイズを頼もうと思った。

インターホンを押し、「すみません、別のズボンを持ってきてほしいんですけど」と呼び出す。しばらくして、軽いノックの音がした。ドア

を少し開けると、20代半ばくらいの女性スタッフが立っていた。笑顔で「はい、お呼び出しでしょうか？」と聞いてくる。

「これ、ちょっと大きいんで、一つ下のサイズと、あの黒いスリムのも見たいんです」と指定した。彼女は「かしこまりました。少々お待ちください」と頷き、すぐに戻ってきた。両手にズボンを抱え、「こちらです」と差し出す。

「ありがとうございます。ちょっと中で履き替えてもいいですか？」
「もちろんです。何かありましたらまた呼んでくださいね」

彼女が去ろうとした瞬間、わざとらしく「あ、すみません。ちょっと手伝ってもらえますか？サイズ感を見てもらいたいんで」と呼び止め

た。少し戸惑った様子だったが、「わかりました」と個室の入り口に立って待ってくれる。

俺はゆっくりと今穿いているズボンのファスナーを下ろした。ベルトを外し、ゆっくりと腰を落とすように脱いでいく。実は前もってとある仕込みをしていた。ボクサーパンツの裾から、チンポの先っぽをこんにちはさせていたのだ。